

第 1 章 はじめに

1 策定の趣旨

印西市は、都心や成田国際空港への良好なアクセスや、住宅、企業及び大型商業施設の集積が進む千葉ニュータウン地域の発展を背景に、人口は緩やかに増加を続けており、外国人の数も増加しています。この動きは、経済をはじめとする多くの分野において国家の枠を越えたグローバル化が急激に進む現在、一層進展していくものと予測されます。近年では、新たな外国人材を受け入れるため、入管法（出入国管理及び難民認定法）が立て続けに改正されており、また、2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機とした訪日外国人の増加も、この流れを加速するものと予想されます。

他方、千葉ニュータウン事業の終息や全国的な少子高齢化の進行に伴い、印西市においても今後は人口の減少が予測されており、地域や企業等における新たな社会の担い手として、外国人が活躍する機会が拡充するものと考えられます。そのためには、**外国人を含めたすべての市民が互いの文化や価値観を受け入れ、理解しあいながら、ともにいきいきと暮らせる多文化共生のまちづくりを進めていく必要があります。**

これまで印西市では、国際化の推進に当たり、「**印西市国際化推進方針（平成 28 年度から平成 32 年度）多文化共生社会を目指して**」に基づき、開かれたまちをめざした国際交流・協力の充実と、グローバル化に対応した多文化共生社会づくりの推進に取り組んできました。

今後は、これまで実施してきた国際化の施策を継続的に進めていくとともに、外国人を含めたすべての市民が印西市に愛着や誇りを持って住み続けたいと思うまちづくりを目指し、その実現に向けた施策を展開していく必要があります。

以上を踏まえ、印西市では、国際化及び多文化共生の理念と施策を整理し、市民・地域・学校・行政など関係する各主体の取組の道しるべとなることを企図して、「**印西市国際化推進方針（Ver.3.0）多文化共生のまちづくり**」を策定します。

2 方針の位置付け

本方針は、印西市基本構想に基づく第 1 次基本計画に掲げる施策の「定住交流の促進」において、関連計画として位置付けられています。

また、総務省が令和 2（2020）年 9 月に改訂した「地域における多文化共生推進プラン」や、千葉県が令和 2（2020）年 3 月に策定した「千葉県多文化共生推進プラン」とも整合を図りながら、本市における国際化と多文化共生のまちづくりを推進するに当たり、その方向性を示します。

3 方針の期間

第 1 次基本計画の計画年度に合わせ、**令和 3（2021）年度から令和 7（2025）年度までの 5 か年**とします。

4 策定の方法

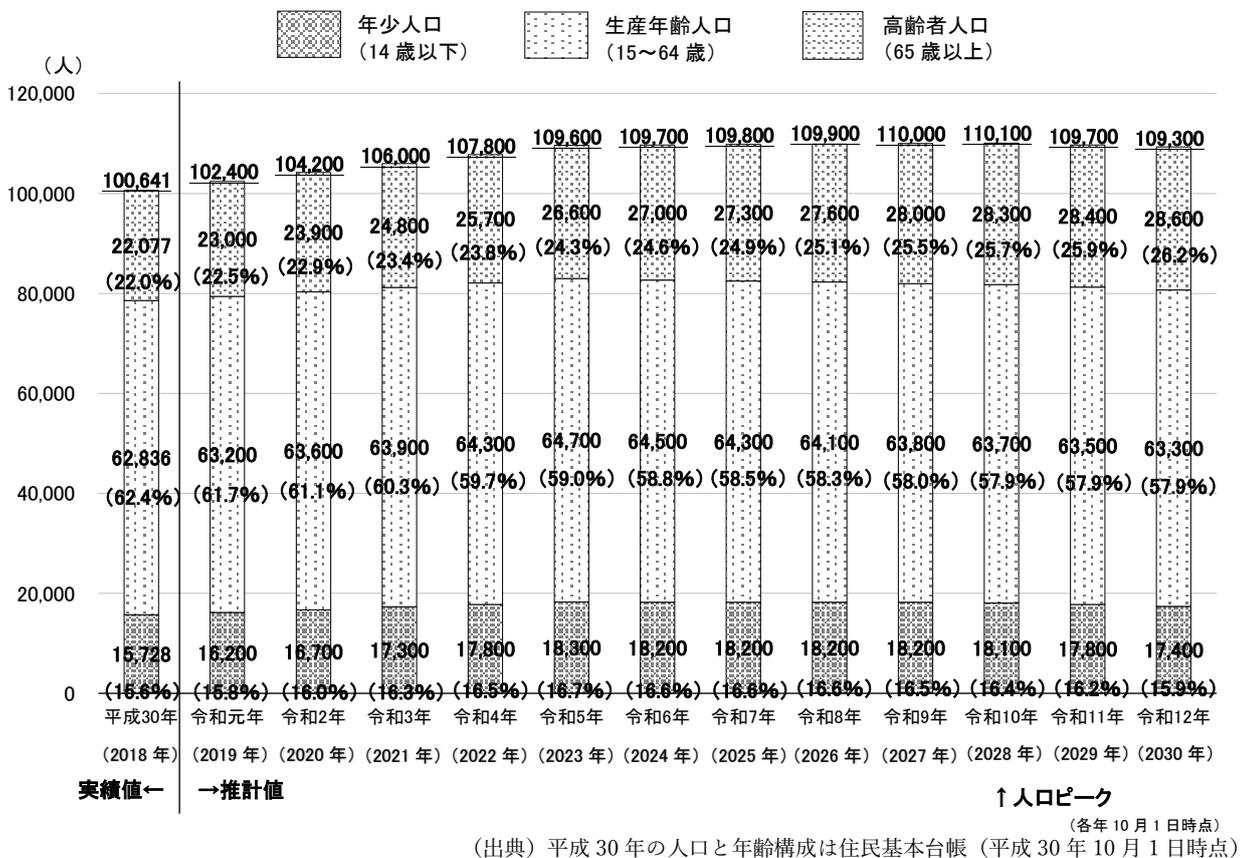
本方針は、印西市内の国際交流関係者、学識経験者、市民及び外国人市民からなる「**印西市国際化推進懇談会**」における意見交換のほか、令和元年度に実施した印西市外国人市民意識調査、パブリックコメントの実施等、幅広い方々の意見を反映して策定しました。

また、策定の過程で、庁内の関係課との調整を図り、適宜、内容の調整を行いました。

第2章 策定の背景

1 本市の現状

(1) 本市の将来人口推計



(2) 外国人市民の推移 (令和2 (2020) 年3月31日現在)

総人口 103,794 人、外国人市民 2,394 人、外国人市民の割合 2.3%

(3) 国籍 (地域) 別外国人数 (令和2 (2020) 年3月31日現在) 計 65 か国

- ①中国 930 人 (38.9%)、②ベトナム 307 人 (12.8%)、③韓国 258 人 (10.8%)、
- ④フィリピン 250 人 (10.4%)、⑤スリランカ人 75 人 (3.1%)、⑥台湾 74 人 (3.1%)、
- ⑦米国 59 人 (2.5%)、⑧タイ 42 人 (1.8%)、⑨ブラジル 37 人 (1.5%)、
- ⑩ペルー人 35 人 (1.5%)、⑪インドネシア人 33 人 (1.4%)、⑫英国 22 人 (0.9%)、
- ⑬ネパール人 22 人 (0.9%) ※20人以上の国籍 (地域) を記載

(4) 在留資格別外国人数 (令和2(2020)年5月31日現在)

- ①永住者 947 人 (41.3%)、②家族滞在 215 人 (9.4%)、
- ③日本人の配偶者等 190 人 (8.3%)、④技能実習 2 号口 188 人 (8.2%)、
- ⑤技術・人文知識・国際業務 184 人 (8%)、⑥技能実習 1 号口 123 人 (5.4%)、
- ⑦定住者 115 人 (5%)、⑧特別永住者 66 人 (2.9%)、⑨留学 59 人 (2.6%)、
- ⑩特定活動 37 人 (1.6%)、⑪投資・経営 36 人 (1.6%)、
- ⑫永住者の配偶者等 35 人 (1.5%)、⑬技能 27 人 (1.2%)、
- ⑭技能実習 3 号口 19 人 (0.8%)、⑮企業内転勤 18 人 (0.8%)

※その他、10 人未満として、高度専門職 1 号口、高度専門職 1 号八、高度専門職 2 号、
特定技能 1 号、宗教、教育、教授、興行、文化活動、研究、在留資格なし

(5) 年齢別外国人数 (令和2(2020)年5月31日現在) ※カッコ内の赤字は 5 年前の割合

90 才～	0 人 (0.1%→0%)	
85～89 才	8 人 (0%→0.3%)	80～84 才 8 人 (0.5%→0.3%)
75～79 才	14 人 (0.3%→0.6%)	70～74 才 31 人 (1.0%→1.4%)
65～69 才	54 人 (1.8%→2.4%)	60～64 才 71 人 (3.3%→3.1%)、
55～59 才	131 人 (4.9%→5.7%)	50～54 才 171 人 (7.5%→7.5%)、
45～49 才	200 人 (10.4%→8.7%)	40～44 才 282 人 (11.5%→12.3%)、
35～39 才	291 人 (14.7%→12.7%)	30～34 才 270 人 (11.6%→11.8%)、
25～29 才	227 人 (8.9%→9.9%)	20～24 才 213 人 (10.5%→9.3%)、
15～19 才	57 人 (3.8%→2.5%)	10～14 才 56 人 (2.6%→2.4%)、
5～9 才	104 人 (3.3%→4.5%)	0～4 才 103 人 (3.4%→4.5%)

(6) 地区別外国人数

(7) 外国人児童・生徒の在学状況

第3章 印西市外国人市民意識調査の結果

第4章 基本的な考え方

1 施策の目指す姿

広く市外にまちの魅力が知られ、多くの人々が本市を訪れ、移住してくるとともに、市民が本市に愛着や誇りを持って住み続けたいと思うまちを目指します。

2 取組の方向性

グローバル化の進展などにより海外との交流や移住が拡大していることから、国際交流や多文化理解を推進するとともに、居住する外国人が安心して生活できるよう支援します。

3 現状と課題

グローバル化により本市においても外国人人口は大きく増加しており、生活に関する情報提供や、相談対応、外国語対応など、外国人が安心して生活することができる支援が求められています。

4 方針：国際化の推進

【方針1】

市民が外国の異文化を理解するための講座イベントや外国人との交流機会の提供など、**多文化共生のまちづくりに向けた取組を推進**します。

【方針2】

日本語を理解することが難しい**市内在住の外国人などが安心して暮らせる**よう、やさしい日本語や多言語化による情報提供の取組を進めるとともに、外国人向け相談の実施、日本語学習などへの支援を行います。

「施策の方向」見直し例

方針	取り組み事例	旧：「施策の方向」	新：「施策の方向」
けた取組の推進 のまちづくりに向 （1）多文化共生	国際化推進懇談会	国際化推進体制の強化	多文化共生意識の醸成
	国際交流協会交流事業	国際性を育む地域づくりの推進	
	異文化理解講座	国際理解の推進	
		外国人市民が暮らしやすい環境づくりの推進	外国人の活躍する場づくり
らせる取組の推進 （2）市内在住の外国人などが安心して暮	翻訳機購入	国際化推進体制の推進	コミュニケーション支援
	市職員研修	国際力の向上	
	日本語教室	外国人市民が暮らしやすい環境づくりの推進	
	外国人無料相談	外国人市民が暮らしやすい環境づくりの推進	生活支援
	災害時外国人対応	国際化推進体制の強化	防災・安全対策
	多言語総合防災ブック	外国人市民が暮らしやすい環境づくりの推進	
	日本語支援員配置	外国人市民が暮らしやすい環境づくりの推進	教育支援
	中学生海外派遣研修	国際理解の推進	

第5章 具体的な施策

(参考資料)



市職員ワークショップ



外国人市民懇話会

A 市職員ワークショップ

日時	令和2年8月31日（月）午後1時～4時30分
場所	印西市役所大会議室
講師	影山 貴大氏（合同会社 J-doc company 代表）
参加者	市職員11名
事務局	企画政策課職員

実施内容（要点筆記）

（1）実施手法とテーマ

LEGO®SERIOUS PLAY®メソッドを活用し、外国にルーツをもつ人たちの受け入れ方を考えよう。

（2）実施内容

○参加者を2グループに分ける。

1班…市民課、国保年金課、社会福祉課、子育て支援課、健康増進課

2班…防災課、シティプロモーション課、商工観光課、グリーン推進課、都市計画課、指導課

○レゴキットを使用し、テーマをイメージした作品を作り、グループで共有する。

○2つのルール…①（制作の際）手の力を信じて作る。考えるよりも作ったものに意味を与える。お題を与えられたらすぐレゴに触ってみる。②（説明の際）作品がすべて。人の顔を見ない。作品を見て語る。聞く側も作品に集中する。

○留意点…なんとなくは禁止。作品のすべて（形、色）に自分なりの意味（メタファー＝暗喩）を与える。他人の作品を大切にす。

○前半…練習用キット（52パーツ、ミニフィグ3）を使い、やり方を習得

○後半…外国にルーツを持つ人たちの受け入れ方を考える。

テーマ1 「外国人との間に起こる問題の要因」

問題そのものではなく、問題が起きる要因を表現→作品同士のつながりを並べる。

（1班）・宗教の違いから、埋葬方法の理解が得られない。

・肝心な部分まで伝えたいが、文化的な壁がある。

・情報量や情報アクセスの問題がある。

・言葉の壁から、子育て支援の内容は理解できても制度の背景まで伝えられない。

・支援を投げかけても文化の壁があり、伝わらない。

（2班）・オーストラリアへの中学生派遣研修が、新型コロナウイルスの感染拡大により中止となった。

・ごみの捨て方がわからない。近所の人に聞きたくても聞けない。

・交通ルールなど、日本のルールがわからない。

・見本となるべき日本人がルールを守らない行動を行っている。

・距離は近くても言葉や文化などの壁がある。

・大陸の分断により、人や資源が分散され、資源の差が生まれ、身分の差が生まれ、言葉や文化の違いが生まれた。



テーマ2 「問題の要因を解決するために必要な行政職員としてのスタンス」

（1班）・言語や文化の理解度で職員ごとに対応の違いが生じないよう、受け入れ態勢を整える。

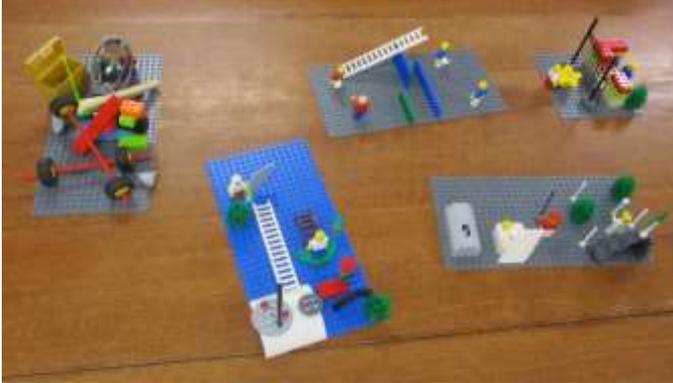
・外国人に対する心の壁を取り払うことで、歯車が合い、相手への理解が進む。

・お互いの歩み寄りで、少しずつ通じ合っていく。

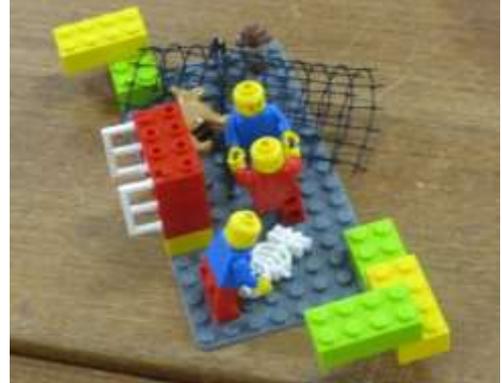
・制度を利用すれば暮らしが向上することを思いとして伝える。

・本気で相手の文化を理解しようとする姿勢をもつ。

- (2班) ・ソーシャルディスタンスなど新たな生活様式を意識しながらも、人と人とのつながりを忘れない。
- ・言葉だけに頼らない、相手との対話。互いの歩み寄り
 - ・ルールを守らない者を罰するなどして、模範を示すこと
 - ・透明性をもって、互いのコミュニケーションを見守ること
 - ・助け合いの精神



「外国人との間に起こる問題の要因」



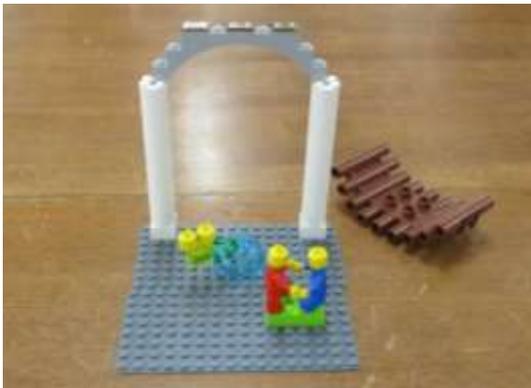
「問題解決に向けた職員のスタンス」

テーマ3 「作品の中からもっとも重要なパーツを取り外す」

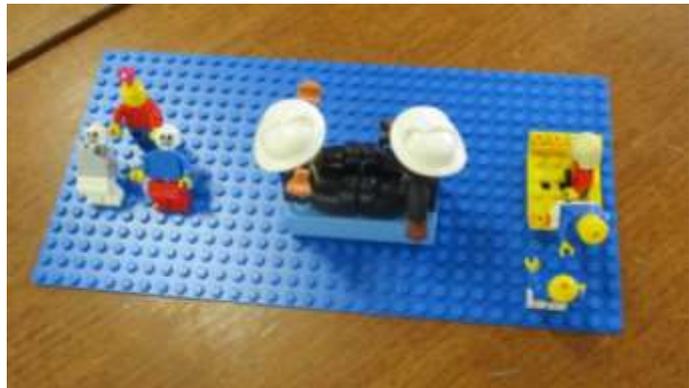
取り外したパーツ（根幹のスタンスのメタファー）を別のテーブルで共有→各パーツをつなげてストーリーを作る→「共有モデル」絶対に外せないものが入っている。

自己採点で0点がないことが大事→自分の意見があれば0点はない。

- (1班) 閉鎖的な姿勢を取り払う+ウェルカムな気持ち+素直な気持ちと伝えたい思い+対等な同じ目線+歩み寄りの気持ち
- (2班) 架け橋となる人材+手を差し伸べる+人と人とのつながり+言葉に頼らないコミュニケーション+共同して暮らすこと+正しいルール



1班「共有モデル」



2班「共有モデル」

結論 「職員としてなにをするか 共有モデルに向けて、今自分ができること」

- (1班) ・言葉じゃなくてもいい。イラストや表情で気持ちを伝える。
- ・わかりやすい言葉を使い寄り添う。オープンな気持ちでできることから。
 - ・面倒くさいという心の壁を取り払いたい。
 - ・担当の仕事はわかりやすい言葉で伝える努力をする。
 - ・心のバリアや、心の奥にある苦手意識を取り払う。
- (2班) ・人と人を結ぶ懸け橋となっていきたい。
- ・言葉だけに頼らず、積極的にコミュニケーションを図っていきたい。

- ・外国人に対する苦手意識をなくし、嫌がらずに話しを聞いていく。
- ・良識ある外国人の目から見て、恥ずかしくない日本の姿を見せる。
- ・積極的にコミュニケーションを図っていく。
- ・自分一人だけではなく、使える人材を活用しつつ、コミュニケーションを図っていききたい。



B 外国人市民懇話会

日 時	【第 1 回】 令和 2 年 9 月 2 3 日 (水) 午前 1 1 時～1 2 時 【第 2 回】 令和 2 年 1 0 月 1 4 日(水) 午前 9 時 3 0 分～1 0 時 3 0 分
場 所	印西市立中央駅前地域交流館
参加者	【第 1 回】 日本語教室りぼん生徒 4 名 (すべて中国出身女性) 【第 2 回】 日本語教室りぼん生徒 6 名 (出身・すべて男性)
協 力	日本語教室りぼんスタッフ
事務局	企画政策課職員

内容 (要点筆記)

【第 1 回】

質問 1 印西市について、便利だと思うことや、よいと思うことを教えてください。

- コンビニやイオン、ビックハウス、ジョイフル本田など、買い物が便利で主婦にとっては暮らしやすい。
- 学校の先生はやさしい。発達支援センターも電話対応してくれて安心。
- 台風のとくに防災無線が流れるので安心。パトカーがパトロールしており、道路も安心。
- 以前住んでいた市より便利だと思う。印西を選んだ理由は、自然が豊かなことと、地震に強く、だいたいのモノが揃っているから。
- 公園が多い。自然環境に恵まれている。買い物が便利。
- 公園や緑が多い。子育てがしやすい。イオンがある。以前住んでいた東京都内や東葛地区の市は人が多く、商店もにぎやかすぎた。金額のわりにマンションの部屋が広いことが魅力で印西市に移ってきた。

質問 2 印西市について、不便だと思うことや、困ったことがあれば教えてください。

- おしゃれなショッピングモールがない。タクシー代が高く、数も少ない。電車賃が高く本数も少ない。
- 電車賃が高い。病院が少ない。
- 交通費が高い。該当が少なく夜が暗い。信号が見えにくいものがある。
- 交通費が高い。隣の民地 (畑地) から砂が舞う。

質問3 印西市の行政や市民に期待することを教えてください。

- 小さい病院が多く、遅くまで空いていない。子どもの病院が遠い。24時間無休の総合病院があるとよい。近くに大きなアウトレットモールがあるとよい。
- 学校やPTAでは言葉の問題がある。ひらがなは難しい。
- 幼稚園から高校の一貫校がほしい。
- 東京に行くことが多いので、交通費を安くしてほしい。
- 東京電機大学の敷地を使っていないのはもったいないと思う。幼～高一貫のインターナショナルスクールがあるとよい。
- 船橋ラポートや、流山にあるようなショッピングモールがほしい。
- 小学生の子どもが、給食はおいしいが量が少ないと言っている。

質問4 その他、思うことがあればなんでも教えてください。

- 10年前に比べ、外に落ちているゴミが増えている印象がある。
- 他市から見ると、印西市が新型コロナウイルス対策で行っている食事クーポン券配布がうらやましい。
- ゴミが増えた。マスクが捨ててある。インフルエンザなどの予防接種に関する情報がない。
- おいしいレストランがほしい。
- 新型コロナウイルスによる問題については、仕方がないと思っている。



【第2回】

質問1 印西市について、便利だと思うことや、よいと思うことを教えてください。

質問2 印西市について、不便だと思うことや、困ったことがあれば教えてください。

質問3 印西市の行政や市民に期待することを教えてください。

質問4 その他、思うことがあればなんでも教えてください。

【その他、りぼんスタッフによる生徒たちへの聞き取り調査のとりまとめ結果】

質問1 印西市について、便利だと思うことや、よいと思うことを教えてください。

質問2 印西市について、不便だと思うことや、困ったことがあれば教えてください。

質問3 印西市の行政や市民に期待することを教えてください。

質問4 その他、思うことがあればなんでも教えてください。